

山口亮一旧宅青雲塾特別展

中国と日本の古墨展

古墨とは中華民国時代まで、毛沢東が中華人民共和国を宣言するまでのものを、それまで残ってきた明、清時代の本歌と仿製品を含めて古墨としていいのではないかと考えている。百年が一つの歴史の区切りでもあるから。(清吾)

古墨「嫦娥奔月」
大清光緒年製銘

縦21.8 横9.2 厚さ2.4センチ

夫が留守の間、不老不死の仙薬を盗み、その薬を携えて月へ逃げる妻の嫦娥。その罰でヒキガエルにされて月に住んでいる。古来、中国では白で描いているのは不老不死の仙薬という話である。

嫦娥奔月

9.26^{tuē}
10.8^{sun}

10/2(月) 休館
入場無料

会場 / 山口亮一旧宅

監修・撮影 / 大塚清吾



「撃甕」(和墨) 江戸時代 南京令光堂 縦11.0 最大幅8.0センチ

あやまってカメにおちた子供を救うために石を投げてカメをこわして助けたという司馬温公の故事に拠った墨である。唐墨に見ない型である。江戸時代の和墨の快作の一つではなかろうか。人気があった墨らしく作家の異なる同型墨を三例過眼している。

古墨

とは、文房四宝における墨の中で、作られてから長い年月を経ているもので、品質の良い墨のことである。通常、唐墨は中華民国時代までに、和墨は江戸時代までにつくられたものを古墨と言つ。ただし、今ではほとんど入手不可能であり、百年以上前の墨は、昔日本に渡ってきたものにたよる以外ない。



古墨
「十一面観音像」
清朝期・胡開文造銘
縦27
横10.7
厚さ2.5センチ



古墨「五老松」
衍明墨(吳申伯作) 銘
径14.5 厚さ2.2センチ

古墨「九龍山」
清朝期・乾隆年製銘
縦20.8 横9.7 厚さ2.0センチ

もっと
古墨の
魅力を知りたい
方へ



「古墨の世界」
青雲塾 第98回

10月14日(土)
昼1時30分～3時30分
講師:大塚清吾
会場:山口亮一旧宅
参加料:500円
申込:0952-60-2978

古墨「御墨」 径16.0 厚さ3.0センチ
大清乾隆年製・玉粹軒珍蔵銘



山口亮一 旧宅

開館時間 / 10:00～16:00
休館日 / 月曜日

〒840-0047 佐賀市与賀町1368-1
TEL・FAX 0952-60-2978
e-mail: machiken@kou.bbq.jp

※駐車台数に限りがございます。乗り合わせの上で来場をお願い申し上げます。



洋画家
山口亮一
(1880～1967)

明治・大正・昭和の佐賀を代表する洋画家。東京美術学校(現 東京芸術大学)在学中に第4回文展に初入選。卒業とともに帰郷し、久米桂一郎、岡田三郎助の指導のもと、佐賀美術協会を創設。同協会会長、佐賀師範学校教諭を務め、後進の育成に力を注ぎ、近代佐賀洋画壇発展に貢献した。

